

パスパ文字漢語の中舌母音-hi-について

中村雅之

1. 漢語の[ə][ɿ]など

13～14 世紀の漢語を記したパスパ文字の中に「hi」という綴りが見える¹。この綴りにはいくつかの用法があるが、その中に[ə][ɿ]などの中舌母音を表す用法がある。具体的には、以下の通りである。

登:「dhiŋ」[təŋ]

徳:「dhiy」[təi]

根:「ghin」[kən]

勾:「ghiv」[kəu]

司:「shi」[sɿ]

このように「-hi-」で中舌母音を表す用法は、どのようにして生まれたのであろうか。以下に、仮説を交えつつ、解釈を提示してみたい。

2. 「hi」と「hiv」

パスパ文字漢語表記では、「希」に対して「hi」、「吼」に対して「hiv」という綴りが与えられる。前者は[hi]を、後者は[həu]を意図している。前者については、声母「h」と韻母「i」の組み合わせであるから、特に問題はない。後者は、素直に声母「h」と韻母「iv」の組み合わせと考えると、[hiu] (ないし[hiau]) となりそうであるが、実際には[həu]を意図しているのである。つまり、パスパ文字漢語表記における「hi」には三種の用法があることになる。

①「希 hi」の場合のように[hi]に用いる。

②「吼 hiv」「黒 hiy」の場合のように「hi-」を[hə-]に用いる。

③「徳 dhiy」「司 shi」の場合のように「-hi-」を[ə][ɿ]などの中舌母音に用いる。

これらの三種は韻尾の有無、および前接声母の有無によって互いに補い合っている。③の用法を徹底させるならば、②を「hhiv」「hhiy」と綴れば統一的な表記になりそうであるが、そのようにしなかったのは②の表記が確定してから③が考案されたからであろう。では②はいかにして考案されたのか。私は「yi-」に対する類推として「hi-」が生まれたと考える。

3. モンゴル語表記の「qi」と漢語表記の「yi-」

中期モンゴル語に男性母音の/-i-/があったか否かについては議論を要するところであろうが、著名なモンゴル学者であるポッペ(N.N.Poppe)はウイグル文字やパスパ文字で「ki」と「qi」の書き分けがあることから、/q/および/g/(ポッペの表記ではqとγ)の後でのみ男性母音/-i-/が保存さ

¹ パスパ文字のローマ字転写は、吉池孝一 2005「パスパ文字の字母表」『KOTONOHA』37. による。なお、曉母の「h2」と匣母の「h1」を特に区別する必要のない限り、単に「h」とする。本稿において数字を付さない「h」は全て「h2」にあたる。

れていたと考えた。仮にこの考えに従えば、パスパ文字モンゴル語の「qi」は[qi̯]および[ci̯]を表したことになる。そして、その「q」をやや変形させて、漢語の匣母(/h/)を表す字母「γ」を作った時、「yi-」という綴りで漢語の[hə-]を表そうとしたのはモンゴル語話者の立場から見ればごく自然なことであった。漢語の中舌母音をモンゴル語の男性母音/-i-/に対応させたからである。

漢語の/h/は三十六字母では曉母と匣母にあたるが、パスパ文字では曉母に「h2」を用い、匣母に「γ」と「h1」を用いた。匣母を直音の「γ」と、拗音(-i-介音を含む)の「h1」の二種に分けたのは、モンゴル語の/q/と/k/の区別を投影させたものである。そこで、漢語で「yi-」という綴りを用いた場合、拗音の[hi]ではありえず、直音の[hə-]と解釈されることになる²。つまり、パスパ文字モンゴル語で「qi」を[qi̯]または[ci̯]と読む習慣を背景として、漢語の「yi-」もまた自然に[hə-]にあてられたのだと考えられる。さらに、「yi-」からの類推によって、「h2i-」も[hə-]に用いられることになったのであろう。

要するに、モンゴル語の[qi̯]を表す表記「qi」を背景に、漢語の[hə-]を表す「yi-」が作られ、さらに「h2i-」へと拡大したということである。

4. 無音の h

「hi-」を[hə-]にあてる用法が生まれるまでの状況を上に見た。そこからさらに拡大した用法として、「-hi-」を中舌母音にあてる用法が出てくることになる。その場合、「h」は完全に無音となる。「h」を子音ではなく母音の一部として機能させる新たな用法が生まれた訳である。これには、中期モンゴル語において、すでに口語では音韻としての/h/がなかったことが関係していると考えられる。中村 2012 でも述べたように、パスパ文字モンゴル語の「h」は 13 世紀の口語ではすでに無音であったと私は考えている。パスパ文字漢語の「-hi-」という綴りを中舌母音として利用したのも、モンゴル語において h が無音であったことが背景の一つにあるのであろう。

5. まとめ

パスパ文字漢語において、中舌母音を「-hi-」で表すという風変わりな用法は、その淵源を探ればパスパ文字モンゴル語の「qi」に行き着く。「qi」はモンゴル語の/qi̯/と/ci̯/を表したが、/qi̯/は[qi̯]の他に異音として[χi̯]を持っていた可能性がある³。漢語の「γ」はモンゴル語の「q」を基にして作られたが、「yi-」という綴りによって、モンゴル語の「qi」によく似た(とモンゴル人に感じられる)漢語の音声[hə-]を表すことになった。そこからの類推により、「hi-」も同様に[hə-]を表すことになり、さらに進んで、h を無音として、「-hi-」によって中舌母音を表すことになったのである。

² モンゴル語話者の立場から見れば、「yi-」は一旦[hi-]に変換され、次に漢語の体系に適応させて[hə-]となる。文字作製という観点から言えば、漢語の[hə-]をモンゴル人が聞いた時、それを[hi-]として受け取り、それに「yi-」という表記をあてたということである。

³ 中村雅之 2012「中期モンゴル語の/h/と/q/について」『KOTONOHA』110. を参照。